

堂谷津の里から

新しい年を迎え、2021年の活動がスタートしました。今年も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、里山再生に取り組んでいきたいと思えます。

田んぼでは、採種用の田んぼで得られた粃から、充実した種粃を選ぶ作業（脱芒、塩水選）を行い、種まきに向けた準備を進めています。山林では、一昨年の台風により荒廃した杉林の整備を続けています。また、昨年から引き続き千葉県環境研究センターによる地質調査が行われています。今回、その興味深い調査結果を寄稿していただきました。

【田んぼでは】



脱芒（だつぼう、のげとり）とは、種粃を網袋に入れて揉むことにより又は脱芒機により種粃先端のひげのような芒（のぎ）を取り除き塩水選や均一な種まきができるよう、単粒にする作業です。



塩水選とは一定の比重の塩水の中で浮かんだ粃を除き、沈んだ粃を充実した良い種粃として選り分ける作業です。

【山林では】



杉林の整備状況です。千葉市による風倒木処理も行われます。

寄稿

いつも濡れている道路歩道の謎と堂谷津の湧水

千葉県環境研究センター地質環境研究室主席研究員 風岡 修

国道51号線の吉岡十字路を抜けて、県道の浜野四街道長沼線を通り、京成バスの御成台車庫の手前の交差点を左折し、堂谷津の入り口のちょっと手前の広い道路の両脇の歩道のところはいつも濡れていることに気づきます。何故濡れているのでしょうか？図は堂谷津周辺の地質断面図です。

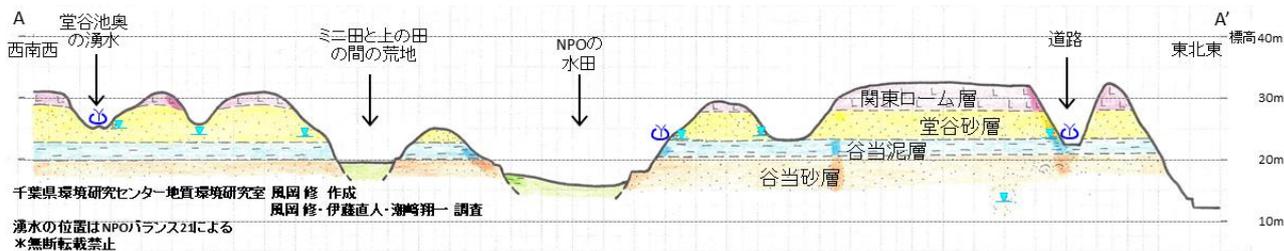


図 堂谷津周辺の西南西－東北東方向の地質断面図。青色の記号は湧水箇所。水色の▼は地下水面の位置。

堂谷津の道路沿いには谷当砂層（写真2）という貝化石を含む（写真5）やや硬い水が通りやすい砂層がみられます。この上には厚さ約4mの谷当泥層（写真3）が重なっています。この地層は、上の田の近くの道路沿いの掘り込み部分の奥に見ることができます（写真1）。この上には、厚さ約5mの砂層を中心とした堂谷津砂層（写真4）、さらにこの上には厚さ5mの関東ローム層（写真6）が覆っています。この関東ローム層は、この周囲の高台の台地の上を覆っており、透水性が非常に良い地層なのです。堂谷津砂層と関東ローム層は、堂谷津の入り口の手前のいつも濡れている道路沿いで垣間見ることができます。雨が降ると、まず関東ローム層にそのほとんどが浸み込み、さらにその下の砂層へ浸透していきます。しかし、さらに下位にある谷当泥層は難透水層のため、水がほとんど浸み込みません。このため、堂谷津砂層の下部に水がたまり、地下水となり、横方向へ流動します。こうして、堂谷津砂層の下部が地表に現れているところでこの地下水が湧き出ているのです。その場所は、堂谷池の奥で皆さんは見ているのですが、同じような地質となっている場所が堂谷津の入り口手前の道路の濡れているところになるのです。



写真1 上の田の近くの道路沿いの掘り込み部に見られる谷当砂層と谷当泥層。



写真2 上の田の近くの道路沿いの掘り込み部に見られる谷当砂層。



写真3 上の田の近くの道路沿いの掘り込み部に見られる谷当泥層。



写真4 堂谷津入り口手前の道路沿いに見られる堂谷津砂層。



写真5 堂谷津入り口手前の道路沿いに見られる谷当砂層。貝化石を含む。



写真6 堂谷津の北の台地上に見られる関東ローム層（左）。根の跡の孔が無数に見られる（上）。

<情報コーナー>

今年の田んぼの種まきは、
4月3日（土）9:00～行います。

NPO 法人バランス 21

E-mail :yatosatoyama@gmail.com

URL :https://balance21.jimdo.com/

連絡先：千葉市若葉区谷当町 70

TEL&FAX:043-239-0645（現地）

※ 寄稿文、図、写真の無断転載禁止